

事例④ 5歳児クラス・9月～12月

ねらい「感じた事や考えたことを友だちと工夫しながら、様々な方法で表現する」

「遊びの中で探究する子どもたち—達成感や満足感を味わえるように—」

子どもの姿

4歳児クラスでは、自分のやりたい遊びを好きな場所で存分に行いながら、友だちと協力することで遊びがもっと楽しくなる経験を積み重ねてきました。5歳児クラスに進級してからはさらに、一つの事柄に対してじっくりと探究する姿も多く見られるようになりました。保育者として、「友だちと思いを共有して試行錯誤しながら、たくさんの気づきや成功経験を得られたらいいな」というねがいのもと、子どもたちと関わっています。

その日々の中で、子どもたちの知りたいという気持ちが高まり、様々なことに意欲的にチャレンジしようとする姿があちこちで見られるようになりました。

子どものあそびや経験

■フラフープ遊び 「まっすぐころがすにはどうしたらいい?」



行動・発言

- ・廊下からフープを転がし、クラスの入り口に入れたいAちゃん。けれども途中でフープの進路が曲がってしまい、イメージ通りに進みません。
- ・どうしたらうまくいくんだろうと、何度も挑戦する中で、こんなことに気がきます。「わかった!この線の上(床)が真っすぐだからそこに置いて、フープも真っすぐ(立てる)。力はね、中くらい!」
- ・その後見事に成功すると、飛び跳ねて大喜び。自信に満ちた表情で友だちにコツを教えてくださいました。

行動・発言

- ・並んでモザイク遊びをする2人。きれいに並べるのが楽しくて嬉しくて、出来上がった作品をお互いに見せ合っていた時でした。
- ・「あれ?!こっち(赤→)から見ると同じ色が並んでる!」「でも、こっち(黄→)からは並んでない!」驚きの大発見!2人は大興奮!うれしそうに保育者に伝える姿がありました。



■モザイク遊び 色の配列の規則性を大発見!



行動・発言

- ・筒状の容器にスティックを入れていたCちゃん。容器が一杯になって、だんだん入りづらくなってきました。
- ・スティックを全部入れたくて、押し込んでみたり、トントンと揺らしてみたり、にらめっこは続きます。
- ・ふいにスティックを半分だけ入れて、中でぐるぐると回してみました。すると…スムーズに入っていくことを大発見!保育者にとっさり笑い合った瞬間でした。



ポイント

■探究する姿を支える援助の工夫



◎配慮事項 (環境構成、保育者の関わりなど)

- ◎子どもたちが疑問に向き合っている時はすぐに解決案を提示するのではなく、「どうしたらいいと思う?」と試行錯誤する機会に繋がる声掛けを意識しました。
- ◎同じ遊びをしている友だちの様子を伝えることで、子ども同士のやりとりの中で、成功経験を感じ合う姿に繋がりました。
- ◎子どもたちが心行くまで試行錯誤できるよう、じっくりと取り組むための時間を確保したり、必要な道具を取り出せるようにしたりしました。
- ◎子どもの喜びや悔しさを一緒に感じることを大切に關わりました。

■シャボン玉アート「丸いもうにしたいのに…」



行動・発言

- ・丸い模様をつくりたいDくんは、友だちの吹いている様子をしばらく眺めていました。
- ・きれいな丸い模様をつくったEちゃんに、「ねえ、どうしてEちゃんのは丸いの?」と尋ねました。「ん〜、ゆっくり吹いてる。」この様子を近くで見ていたFちゃんも入ってきました。「ストローが、ぱっと開いているほうがいいかもよ!」2人に教えてもらって、Dくんはイメージ通りの丸がつくれたのか、満足そうに2つ、3つとつくり続けていきました。

あそびや経験が小学校につながるように

5歳児クラスでは、これまでの経験を生かして遊びを発展させたり、試したことやわかったことを友だちや保育者と共有したりすることで、さらに探求しようとする姿がみられます。試行錯誤するために必要な時間を十分に確保すること、日々の遊びの中で、子どもたちの自由な発想を尊重すること、「それいいね!」と、子どものありのままの表現を肯定的に捉え認めることで、子どもたちが自信をもって探究する姿を支えていきたいと思います。

小学校では、このような活動の経験を生かせるように、生活科を中心に、具体的な活動や体験を通して気づきが表現できるように支援していきます。子どもたちが「繰り返す!」ことができるように学習活動の時間を確保することや、自分のやり方で「試してみたい」と思えるように材料を用意したり、場を設定したりすることなどを各教科で取り組み、子どもたち一人ひとりの達成感や満足感を伴った「学び」につながるようにしていきます。(小学校教員)

園での子どもたちは、毎日の遊びの中でこんなにもたくさんの疑問や不思議に出会い、試行錯誤や探究を繰り返しているということに驚かされます。その土台には、先生方が創り出す安心して遊び込むことができる環境が欠かせないものです。自分の好きな遊びを選べること、十分な数の道具があること、満足いくまで取り組める活動時間が保障されていること。そして、発見を喜び合ったり、教え合ったりできる仲間がいること、くじけそうな時や嬉しい時に、同じ気持ちを共有してくれる先生が傍にいてくれること。日々の遊びの中で味わう達成感や有能感が自信となって、子どもたちの新しい挑戦に繋がっていきます。

(コーディネーター)